

各位

上場会社名 朝日工業株式会社
 代表者 代表取締役社長 村上 政徳
 (コード番号 5456)
 問合せ先責任者 常務取締役管理本部長 稲場 進
 (TEL 03-3987-2161)

当社の親会社 合同製鐵株式会社
 代表者 代表取締役社長 明賀 孝仁
 (コード番号 5410)

2019年3月期通期業績予想等と実績値との差異に関するお知らせ

2019年3月期(2018年4月1日～2019年3月31日)連結業績につきまして、2019年2月1日に公表いたしました予想値および個別業績における前連結会計年度実績値との差異が生じましたのでお知らせいたします。

記

●業績差異について

1. 2019年3月期通期連結業績予想値と実績値との差異(2018年4月1日～2019年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 41,000	百万円 △250	百万円 △300	百万円 △650	円 銭 △92.85
実績値(B)	40,367	△342	△388	△848	—
増減額(B-A)	△632	△92	△88	△198	
増減率(%)	△1.5	△37.0	△29.5	△30.6	
(ご参考)前期実績 (2018年3月期)	35,878	△64	△74	△362	△51.82

2. 2019年3月期通期個別業績実績値と前期実績値との差異(2018年4月1日～2019年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前期実績(A)	百万円 33,459	百万円 △221	百万円 △350	百万円 △541	円 銭 △77.29
実績値(B)	37,769	△517	△538	△902	△128.87
増減額(B-A)	4,310	△295	△187	△361	
増減率(%)	12.9	△133.8	△53.6	△66.7	

3. 差異の理由

①連結業績予想値と実績値との差異

前回業績予想開示時に対し、鉄鋼建設資材事業において主原料である鉄スクラップ価格が想定以上に上昇したことと、種苗事業において見込んでいた販売が次年度へ先送りとなったことにより、営業利益、経常利益が前回発表予想を下回る結果となりました。

また、中国における肥料事業からの撤退による特別損失を計上したことを主因に、親会社株主に帰属する当期純利益が業績予想を大幅に下回る結果となりました。

②個別業績実績値と前期実績値との差異

売上高は、鉄鋼建設資材事業において、販売価格の改善と販売数量の拡大により前期実績を上回りました。一方収益は、肥料事業において主要委託元との取引縮小により販売数量が減少したことから、営業利益、経常利益、当期純利益いずれも前期実績を大幅に下回る結果となりました。

以上